

(9) 河川下流から河口域にかけての有毒赤潮発生機構の 解明と抑制方法の検討

予算

瀬戸内海研究会議：大阪湾圏域の海域環境再生・創造に関する研究助成

結果の概要

2007年と2011年に淀川下流で、海洋性の有毒植物プランクトン *Alexandrium tamarense* が赤潮を形成し、これによるシジミの麻痺性貝毒が検出されて出荷停止となった。本研究の目的は、*A. tamarense* の増殖・赤潮形成原因を解析し、その抑制方法を定量的に明らかにすることである。2012年は淀川において現場観測を実施し、海水の遡上条件について検討した。その結果、淀川大堰からの出水が少ない場合は海水の遡上が可能となり、ある程度の出水があると成層度に応じて河口循環流により海水が遡上することが示唆された。

担当者

山本圭吾